

命は人間を照らし出す光

著者	佐々木 哲夫
雑誌名	大学礼拝説教集
号	19
ページ	53-57
発行年	2015-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1204/00024644/

「命は人間を照らし出す光」

宗教部長 佐々木 哲 夫

詩編三六編六〜十節

6 主よ、あなたの慈しみは天に

あなたの真実は大空に満ちている。

7 恵みの御業は神の山々のよう

あなたの裁きは大いなる深淵。

主よ、あなたは人をも獣をも救われる。

8 神よ、慈しみはいかに貴いことか。

あなたの翼の陰に人の子らは身を寄せ

9 あなたの家に滴る恵みに潤い

あなたの甘美な流れに渴きを癒す。

10 命の泉はあなたにあり

あなたの光に、わたしたちは光を見る。

ヨハネによる福音書一章六～九節

⁶ 神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。⁷ 彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によつて信じるようになるためである。⁸ 彼は光ではなく、光について証しをするために来た。⁹ その光は、まことの光で、世に來てすべての人を照らすのである。

クリスマスの視座

神の超越的実在と地上の有限的実在が交差した出来事であるイエス・キリストの誕生から二千年ほど経った私たちは、二〇一四年のクリスマスに何を見ようとしているでしょうか。預言者イザヤが見たインマヌエル誕生の二重景色や占星術の学者や羊飼いたちが訪れた乳飲み子などを見ることでしょうか。ここでは、私たちの視座をイエス・キリストと同時代に生きた洗礼者ヨハネに遡らせてメシアの到来を見つめたいと思います。

命の光の到来

さて、洗礼者ヨハネは、イエス・キリストの到来を「まことの光が世に来てすべての人を照らす」出来事だったと証言しています。その光はただの光ではありません。福音書記者は、当該文脈の4節において「命は人間を照らす光であった」と表現しています。イエス・キリストは、光として到来し、しかも、命の光としてすべての人を照らし出すというのです。暗闇の中に輝く光であるとした表現しようのないその実体は、命でした。クリスマスツリーを飾るイルミネーションやロウソクの光のようなものではなく、死と対照される命の光がこの世に到来したのです。

最初のクリスマスから二千年ほど経過した時代に生きている私たちですが、洗礼者ヨハネのように命の到来を身近な出来事として実感したいと思っています。そこで、その出来事をバック・ライトのように浮き彫りにする詩編36編10節「命の泉はあなたにあり、あなたの光に、わたしたちは光を見る」に注目したいと思います。少なからず詩編の注解者たちは、この章句をイエス・キリストの誕生と共鳴させております。

命の泉を求めて

さて、詩編の記者は、命そのものである神ご自身をまことの光・命の泉と表現しています。〈泉〉

の原義は、水を求めて土を掘る動作に由来しています。井戸を掘るという日常的な状況ではなく、乾燥地帯の者が水を求めて一生懸命に土を掘る姿を反映しての言葉です。〈泉〉は、旧約聖書に18回記載されていますが、ここでは数箇所を参照します。

預言者エレミヤは、主を捨てることは悪であり、それを「命の泉〔源〕を捨てた」と表現しています。(2・13、17・13)。また、預言者ゼカリヤは、偶像崇拜者や偽預言者たちを一掃する「罪と汚れを洗い清める一つの泉が開かれる」(13・1)ことを語っています。いずれも、かなりの緊急状況を描写するものです。私たちが注目する言葉は、箴言に記されています。「主を畏れることは命の源〔泉〕、死の罟を避けさせる」(14・27)です。クリスマスのお出来事を浮き彫りにするバツク・ライトとして響いてきます・すなわち、まことの光・命の光の到来に立ち会う者の姿は、主を畏れる者のそれであるということです。洗礼者ヨハネの言葉「あの方は栄え、わたしは衰えねばならない」(ヨハネ3・30)を連想させます。

私たちを見つめる時

さて、旧約聖書の人々や最初のクリスマスの時の人々は、メシアの到来を待望しました。換言するならば、人間から神の方向に向かっていたのです。しかし、イエス・キリストの誕生は、そ

の方向を逆転させました。まことの光が、世に來たということです・すべての人を照らすということです。神ご自身である命の光が私たちの方向に向かって到來したのです。二〇一四年のクリスマスに、命の光に照らし出される私たち自身を見つめたいと思います。